

ヒラメ種苗生産の現状と体色異常魚の魚市場での価格等に関するアンケート結果について

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2025-04-24
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 加治, 俊二, 福永, 辰廣
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2014499

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



ヒラメ種苗生産の現状と体色異常魚の魚市場での価格等
に関するアンケート結果について（資料）

加治俊二・福永辰廣

放流ヒラメは体色異常（主に黒化）を理由に正常魚より安く扱われているという問題がある。黒化の防除技術開発を進める上で必要な種苗生産方法の現状や実際の体色異常魚の扱われ方を把握するため本アンケートを行った。

種苗生産では白化率は10%以下の事例が多く防除技術の確立を示唆している。黒化率は平均41.7%でばらつきが大きく、その防除技術が確立されていない。中間育成中に黒化率は高くなる傾向が認められた。

白化魚は、軽度な場合ほぼ半数の県、重度な場合半数以上の県で、それぞれ正常魚の3～9割、3～7割の価格で取り引きされている。黒化魚は、軽度な場合ほぼ半数の県、重度な場合8割前後の県で、それぞれ正常魚の3～8割、3～9割の価格で取り引きされている。

栽培技研, 27(2), 67-101, 1999